

交付運用報告書

損保ジャパンSRIオープン 〈愛称〉 未来のちから

追加型投信／国内／株式

作成対象期間（2015年12月9日～2016年12月8日）

第12期（決算日 2016年12月8日）

受益者のみなさまへ

第12期末（2016年12月8日）	
基準価額	11,302円
純資産総額	1,573百万円
騰落率※	4.6%
期中分配金合計	500円

※騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「損保ジャパンSRIオープン」は、このたび第12期の決算を行いました。

当ファンドは、日本の株式を主要投資対象とし、「企業の社会的責任」に着目すること、および相対的に割安と評価される銘柄に投資することにより、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）を中長期的に上回る運用成果を目指します。当作成期もそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書（全体版）は下記の方法で閲覧いただけます。

なお、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

〈運用報告書（全体版）の閲覧方法〉

右記URLにアクセスし、「ファンド検索」等から、当ファンドのページを表示させることにより、運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル



<http://www.sjnk-am.co.jp/>

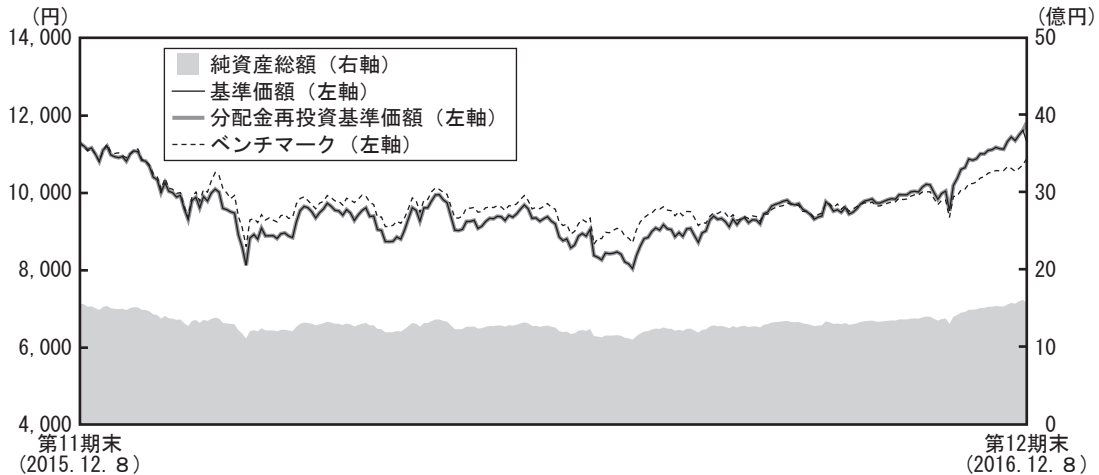
お問い合わせ先



クライアントサービス第二部 0120-69-5432
(受付時間 営業日の午前9時～午後5時)

運用経過

■ 基準価額の推移



第12期首：11,278円

第12期末：11,302円（期中分配金合計500円）

騰落率：4.6%（分配金再投資基準価額ベース）

- ・分配金再投資基準価額およびベンチマーク（TOPIX（東証株価指数））の推移は、2015年12月8日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額の主な変動要因

（損保ジャパンSRIオープン）

高位に組み入れていたマザーファンドの基準価額が上昇したため、当ファンドの分配金再投資基準価額が上昇しました。

（損保ジャパンSRIマザーファンド）

期中の騰落率は+6.6%となりました。

国内株式市場が上昇したため、期を通して株式を高位に組み入れていたマザーファンドの基準価額も上昇しました。個別銘柄では、野村ホールディングス、三菱商事、滋賀銀行、三井物産、第一生命ホールディングス、T&Dホールディングスなどがプラスに寄与しました。

■ 1万口当たりの費用明細

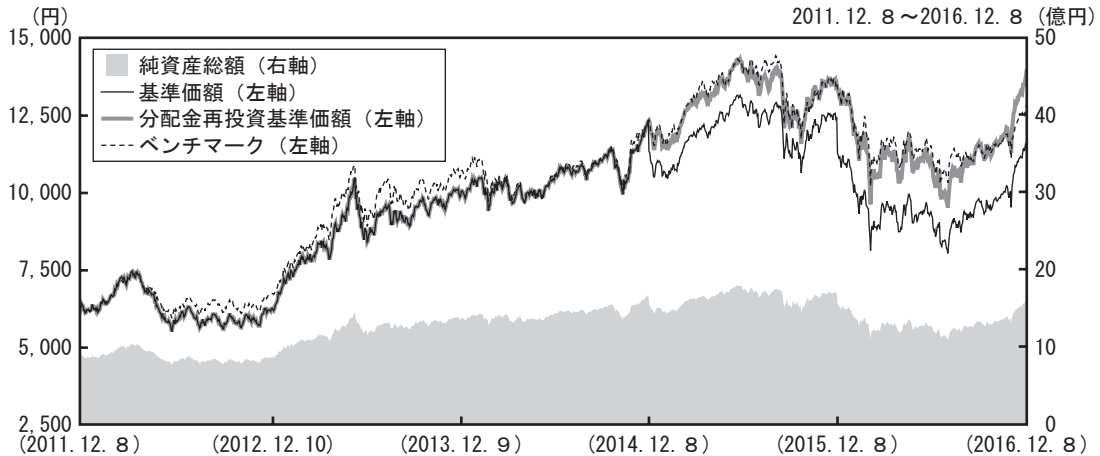
項目	第12期		項目の概要
	(2015年12月9日～2016年12月8日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	155円	1.620%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率（年率）× $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は9,595円です。
（投信会社）	（73）	（0.756）	ファンドの運用の対価
（販売会社）	（73）	（0.756）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	（10）	（0.108）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	12	0.129	(b) 売買委託手数料＝ $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株式）	（12）	（0.129）	
(c) その他費用	0	0.003	(c) その他費用＝ $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
（監査費用）	（0）	（0.003）	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
（その他）	（0）	（0.000）	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	168	1.753	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■最近5年間の基準価額等の推移



- ・分配金再投資基準価額およびベンチマーク（TOPIX（東証株価指数））の推移は、2011年12月8日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

決算日	2011年12月8日 決算日	2012年12月10日 決算日	2013年12月9日 決算日	2014年12月8日 決算日	2015年12月8日 決算日	2016年12月8日 決算日
基準価額 (円)	6,354	6,212	10,037	11,334	11,278	11,302
期中分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	1,000	1,000	500
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 2.2	61.6	22.9	8.3	4.6
ベンチマーク騰落率 (%)	—	5.8	59.2	15.3	8.4	△ 3.6
純資産総額 (百万円)	889	866	1,377	1,546	1,560	1,573

ベンチマークは、TOPIX（東証株価指数）です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

■投資環境

TOPIXは3.6%の下落となりました。

期初は、FOMC（米連邦公開市場委員会）による9年半ぶりの利上げを受けて株価は上昇しましたが、年頭の中国経済減速懸念に加え、1月末の日銀によるマイナス金利政策導入及び追加利上げに対するFRB（米連邦準備理事会）の慎重な姿勢がネガティブ視され、株価は2014年の量的緩和前の水準まで下落しました。

今年度に入り、日銀の金融政策への失望感と底堅い企業決算を背景に株価が一進一退で推移した後、6月末の英国国民投票がEU離脱との結果となると、急速な円高株安となりました。その後は、米追加利上げの時期を巡る思惑に左右されながらも株価は堅調に推移し、11月の米大統領選でトランプ氏が勝利すると、政策期待から米長期金利は上昇、米S&P500は連日の最高値更新となりました。また、国内株式市場はドル高円安効果もあり、年初の水準まで戻しました。

■当該投資信託のポートフォリオ

期を通して損保ジャパンSRIマザーファンドの組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率（対純資産総額比）は、99.0%です。

（損保ジャパンSRIマザーファンド）

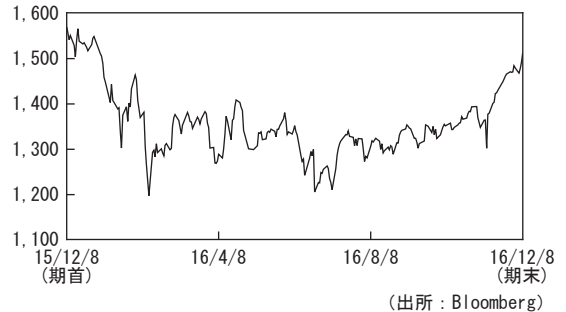
期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、95.7%です。

期末時点での業種別構成比率はグラフのとおりです。

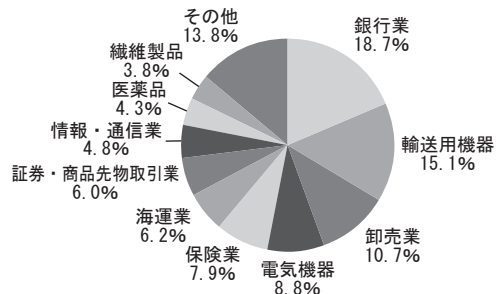
当期間中に独自の調査分析に基づく割安度にしたがって銘柄入れ替えを行いました。

主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、第一生命ホールディングス、デンソー、野村ホールディングスなど、主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、クラレ、キヤノン、宇部興産などです。

TOPIX（東証株価指数）の推移



損保ジャパンSRIマザーファンドの業種別構成比率



(注1) 比率は、第12期末における国内株式の評価総額に対する各業種の評価額の割合。

(注2) 端数処理の関係上、構成比合計が100%とならない場合があります。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

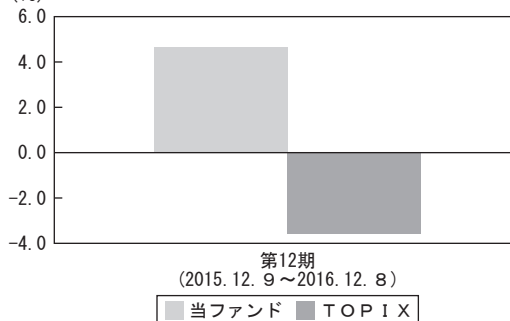
当ファンドの騰落率（分配金再投資基準価額ベース）は、ベンチマーク（TOPIX）の騰落率（-3.6%）を8.2%上回りました。当ファンドは期を通じて「損保ジャパンSRIマザーファンド」を高位に組入れておりましたので、以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異についてご説明します。

<損保ジャパンSRIマザーファンドとベンチマークとの差異>

マザーファンドの騰落率は、TOPIX（配当込み）の騰落率（-1.4%）を8.1%上回りました。

ベンチマークとの差異を要因分析しますと、業種要因では、卸売業、証券、商品先物取引業、保険業のオーバーウェイトなどがプラス要因、海運業のオーバーウェイト、機械、建設業のアンダーウェイトなどがマイナス要因となりました。個別銘柄要因では、セイコーエプソン、ゲンゼ、三菱商事のオーバーウェイトなどがプラス要因、マツダ、リコー、日立製作所のオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。

(%) 基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



■分配金

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、1万口当たり500円の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

<分配原資の内訳>

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第12期
	2015年12月9日～2016年12月8日
当期分配金	500
(対基準価額比率)	4.24%
当期の収益	500
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,674

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。

また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税引前)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■今後の運用方針

(損保ジャパンSRIオープン)

今後もマザーファンド受益証券の組入水準を高位に維持することで、信託財産の中長期的に着実な成長を目指します。

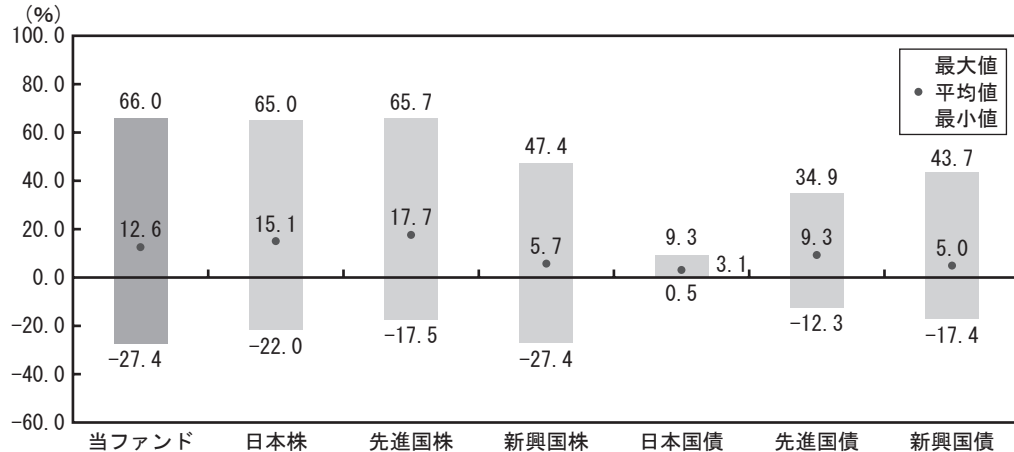
(損保ジャパンSRIマザーファンド)

今後も「CSR(企業の社会的責任)」に先進的に取り組んでいる企業の中から、当社独自の投資価値分析に基づき相対的に割安度の高い銘柄へ投資することで、リスクを軽減しつつ信託財産の中長期的に着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

■当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	信託財産の中長期的に着実な成長を図ることを目的に、積極的な運用を行います。	
主要投資対象	損保ジャパンSRIオープン	損保ジャパンSRIマザーファンド受益証券
	損保ジャパンSRIマザーファンド	わが国の株式
運用方法	<p>①日本の株式に投資します。 東証株価指数（TOPIX）をベンチマークとし、中期的にこれを上回る運用成果を目指します。</p> <p>②企業の社会的責任に着目します。</p> <p>③相対的に割安と評価される銘柄に投資します。</p>	
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p>	

■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



期間：2011年12月～2016年11月

* 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

* 各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

- ・当ファンドについては、分配金（税引前）再投資基準価額の騰落率です。
- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

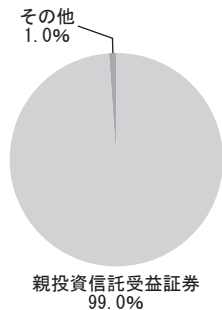
※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

○組入ファンド

	第12期末
	2016年12月8日
損保ジャパンSRIマザーファンド	99.0%

（注）比率は第12期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は第12期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

項目	第12期末
	2016年12月8日
純資産総額	1,573,403,960円
受益権総口数	1,392,087,841口
1万口当たり基準価額	11,302円

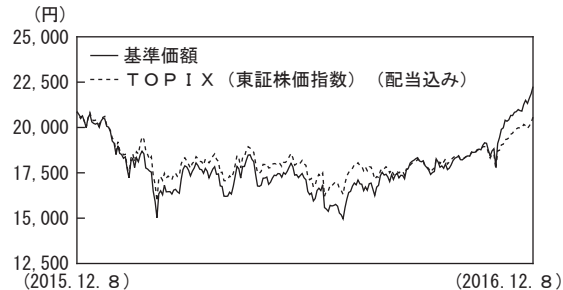
※当期中における追加設定元本額は51,139,363円、同解約元本額は42,966,382円です。

■組入上位ファンドの概要

※組入ファンドの計算期間の詳細な運用経過および全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

<損保ジャパンSRIマザーファンド>

○基準価額の推移



・ベンチマーク（TOPIX（東証株価指数）（配当込み））の推移は、2015年12月8日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

○組入上位10銘柄

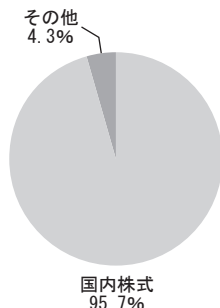
	銘柄名	業種	比率
1	第一生命ホールディングス	保険業	4.9%
2	野村ホールディングス	証券・商品先物取引業	4.8%
3	三井物産	卸売業	4.6%
4	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	4.4%
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	4.4%
6	日立製作所	電気機器	4.4%
7	三菱商事	卸売業	4.3%
8	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.2%
9	ツムラ	医薬品	4.1%
10	本田技研工業	輸送用機器	3.9%
組入銘柄数		37銘柄	

○1万口当たりの費用明細

(2015年12月9日～2016年12月8日)

項目	
売買委託手数料 (株式)	23円 (23)
その他費用 (その他)	0 (0)
合計	23

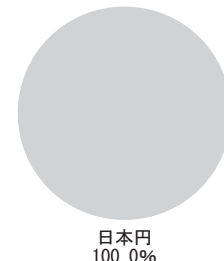
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

(注3) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2016年12月8日）現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

■指数に関して

○当ファンドのベンチマークである「東証株価指数（TOPIX）」について

東証株価指数（TOPIX）とは、東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時（1968年1月4日終値）の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。東証株価指数（TOPIX）は、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）とは、東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時（1968年1月4日終値）の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。東証株価指数（TOPIX）は、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI コクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界主要国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）は、MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）をもとに委託会社が独自に計算したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPI に関する一切の知的財産権その他一切の権利は、すべて野村證券株式会社に帰属します。野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はCitigroup Index LLCに帰属します。また、Citigroup Index LLCは同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

J.P. Morgan GBI-EM グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

J.P. Morgan GBI-EM グローバル・ディバーシファイドは、J.P. Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。同指数の著作権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。